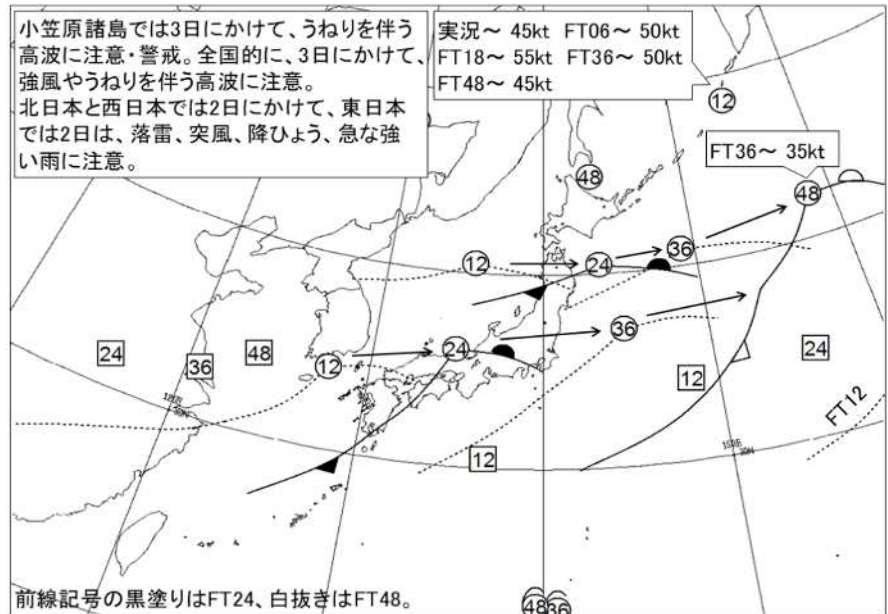


短期予報解説資料 2026年11月1日15時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① オホーツク海に500hPa 5100m以下の寒冷渦があって東進。地上低気圧が寒冷渦に接近して発達中。低気圧周辺の北日本で強い風や非常に強い風を観測し、波が高くしている所がある。
- ② 500hPa 5760m付近の強風軸に対応する前線が華北から黄海にのび、前線上の黄海に低気圧があって東進。日本海にも500hPa 5520m付近のトラフに対応した低気圧があって東進。
- ③ 小笠原近海には非常に強い台風第31号があって、動きが遅くなっている。南西諸島と東～西日本太平洋側には広くうねりが到達し、小笠原諸島ではしけている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の寒冷渦及び発達中の低気圧は、1日夜にかけて千島近海に進む。低気圧の影響で強い風や非常に強い風が吹いて波が高くなり、しける所がある。北日本では1日は強風に、2日にかけて高波に注意。北海道地方では1日は、湿った雪による着雪にも注意。
- ② 1項②の黄海の低気圧は、2日夜にかけて西～東日本を通過して日本の東へ進む。また、1項②の日本海の低気圧は1日夜までに前線を伴い、2日は三陸沖を東北東進する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。北日本と西日本では2日にかけて、東日本では2日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。これまでの大雨で地盤の緩んでいる東北地方と北陸地方では、普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。低気圧や前線の影響で、強い風が吹いて波が高くなる所がある。北～西日本では2日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 1項③の台風第31号は、進路を西寄りに変えて3日にかけて東経140度付近に進み、その後は北寄りに進路を変える。台風からのうねりが伝搬して波が高くなり、しける所がある。小笠原諸島では3日にかけて、高波に注意・警戒。西日本では1日は、東日本と沖縄地方では3日にかけて、高波に注意。
- ④ 3日は、500hPa 5340m付近で-33℃以下の寒気を伴う正渦度極大域に対応する低気圧が、オホーツク海に発生して千島近海に進む。また、500hPa 5400m付近の次のトラフが3日夜には日本海北部へ進む。北陸付近から日本海西部には、一時的に地上のシアーラインが顕在化し、伊豆諸島付近も気圧の谷となる。これらの気圧の谷の周辺の北～東日本では3日は、対流雲の発達に留意。低気圧の近傍となる北日本では3日は、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

② 波浪(明日まで)：北海道・小笠原諸島5、関東・伊豆諸島・東海・近畿・四国・沖縄3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。